

第 2 回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見とその対応について

1 第 3 期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」(素案) について

No.	主 な ご 意 見 等	回 答 ・ 対 応
1	・社会動態について、土浦が東京圏から近くベッドタウン的な要素もあって人口が増えてきていると考えているが、その辺りはどのように分析しているのか。 ・総人口の推移に与えてきた自然動態・社会動態の影響について、2011 年は東日本大震災、2019 年はコロナにより下がっているが、2023 年には社会増の影響で人口が増えている。テレワーク等の普及によって、本市を拠点とされる方が多くなったものと考えているが、どう分析しているのか。	・社会増の要因については、2015 年に常磐線の上野東京ラインが開業したことに伴い、東京駅や品川駅へのアクセスが向上したことが大きく、土浦は東京と距離が近いとため、通学や通勤でメリットがあり、特に恩恵を受けているのではないかと考えている。 ・また、テレワークや在宅勤務が普及し、東京一極集中から地方分散型への社会構造の転換が進んだことが、本市にとって人口増の追い風になっていると考えている。
2	・未婚率については、各年齢層において男性の未婚率が高い傾向があるが、理由が分かれば説明願いたい。	・未婚率については、分析が難しいところもあるが、正規雇用で男性が減ったことが影響している可能性がある。引き続き分析を進めて、次回の会議で報告したい。 ※参考資料のとおり
3	・当日配布資料について「土浦市と茨城県外の社会移動数 年齢 5 歳階級別」の女性のデータが掲載されているが、とても興味深いデータになっている。2018 年は 25 歳から 29 歳について転出超過だったが、2022 年は転入超過となっている。 ・もともと土浦市に住んでいた方がいったん東京圏に出て、再び土浦市に戻ってきているのか、それとも全く土浦市にゆかりのない女性が来ているのかによって政策が変わってくると思うので、アンケート調査の中で分析していただきたい。	・若い女性が戻ってきているところは、土浦市の一番良い特徴である。 ・転入者用のアンケートの中で調査し、分析していきたい。

2 土浦市将来の人口ビジョンに係るアンケート調査の実施について

No.	主 な ご 意 見 等	回 答 ・ 対 応
1	・自宅から市外に通っている学生は、対象になるのか。転出も転入もしていない方の状況を調査する必要があるのではないか。	・自宅から東京圏に通っている人も多いと認識しているが、抽出が困難なため、対象とすることは難しい。
2	・転入者及び転出者用アンケートについて、25歳から29歳の女性は、今回の人口動向分析でも重要なところのため、今までどおりではなく重点化すべき。	・本会議において、若い女性の移動の変化や合計特殊出生率が大きなテーマになっていることから、転入者及び転出者用アンケートの対象者について、「18歳から49歳の男女」に変更する。
3	・学生用アンケートの対象に、アール医療専門職大学を加えることを検討していただきたい。	・土浦市内には、つくば国際大学とアール医療専門職大学の2校の大学が所在しているため、アンケートの対象にアール医療専門職大学を加える。
4	・定点アンケートの観点で、前回調査の際に回答いただいた方に対して、今回も引き続き調査をしてはどうか。	・定点アンケートの観点は重要だが、アンケートは無記名で実施しているため、回答した方を特定することができず、前回の回答者を対象とすることは困難である。
5	・25歳から29歳の女性が転入超過となっている点について、転入された方がもともと土浦市に住んでいたのかどうかを調査すべき。	・転入者用アンケートに、「過去に土浦市に住んでいたか」を調査する質問を追加する。
6	・「将来理想としてどんなまちに住みたいですか」の設問の中で、「市民がまちづくりに積極的にかかわるまち」を選択肢としていれることを検討していただきたい。	・転入者、転出者用アンケートの問17の選択肢に「市民がまちづくりに積極的に参画できるまち」を追加する。

Ⅲ 配偶関係別人口

「未婚」の割合は男性が高く、「死別」及び「離別」の割合は女性が高い

男女別 15 歳以上人口を配偶関係別にみると、男性は、「未婚」が 1854 万 4 千人（15 歳以上男性の 34.6%）、「有配偶」が 3079 万 8 千人（57.4%）、「死別」が 179 万 5 千人（3.3%）、「離別」が 251 万 2 千人（4.7%）となっている。

一方、女性は、「未婚」が 1424 万 6 千人（15 歳以上女性の 24.8%）、「有配偶」が 3101 万 8 千人（54.0%）、「死別」が 827 万 2 千人（14.4%）、「離別」が 392 万 9 千人（6.8%）となっている。（表Ⅲ－１）

表Ⅲ－１ 配偶関係，男女別 15 歳以上人口（2015 年～2020 年）

男 女， 配偶関係	実数（人）		割合（%）		2015年と 2020年の差 （ポイント）
	2015年 （平成27年）	2020年 （令和2年）	2015年 （平成27年）	2020年 （令和2年）	
総数	111,144,103	111,114,497	100.0	100.0	0.0
未婚	31,734,797	32,790,076	28.6	29.5	1.0
有配偶	63,330,064	61,816,464	57.0	55.6	-1.3
死別	10,041,292	10,066,871	9.0	9.1	0.0
離別	6,037,950	6,441,086	5.4	5.8	0.4
男	53,674,635	53,649,545	100.0	100.0	0.0
未婚	17,905,034	18,544,172	33.4	34.6	1.2
有配偶	31,629,360	30,798,417	58.9	57.4	-1.5
死別	1,774,279	1,794,993	3.3	3.3	0.0
離別	2,365,962	2,511,963	4.4	4.7	0.3
女	57,469,468	57,464,952	100.0	100.0	0.0
未婚	13,829,763	14,245,904	24.1	24.8	0.7
有配偶	31,700,704	31,018,047	55.2	54.0	-1.2
死別	8,267,013	8,271,878	14.4	14.4	0.0
離別	3,671,988	3,929,123	6.4	6.8	0.4

注）不詳補完値による。

出展：総務省「令和2年国勢調査」

婚姻・離婚の動向④

- ・ 結婚する者に占める再婚者の割合は、男性、女性ともに増加傾向。
- ・ 再婚者の割合は、男性の方が一貫して高い。

